

婦人科疾患について⑥

子宮内膜症について

子宮内膜症とは

- 子宮内膜症とは？
子宮内膜が子宮外で発生・発育した状態。月経のたびに病変から痛みが生じる。
- 原因は？
不明である。子宮内膜移植説（逆流説）、腹膜化生説、自己免疫説、迷入説などが原因として考えられている。
- 好発部位は？
 - 子宮表面などの腹膜，卵巣（チョコレート嚢胞を形成），ダグラス窩深部などがある。
 - 稀に肺や胸膜，直腸や臍部に発生することもある（稀少部位内膜症）。
胸膜病変は気胸の原因ともなる（月経随伴性気胸）。

子宮内膜症の疫学

- 好発年齢は？
- 出産経験のない女性ほど発症時期が早いと言われる（平均すると初経の14年後に発症）。
- 1回妊娠するたびに発症年齢が7年遅れるとも言われる。これは妊娠が子宮内膜症発症に抑制的にはたらくことを示唆している。
- 初経の低年齢化、および初産年齢の高齢化により、特に若い妊娠経験のない女性において子宮内膜症は増加傾向にある。

子宮内膜症の疫学

- 頻度は？
- 月経のある女性の10%に子宮内膜症がみられると言われている。
- 不妊症女性の50%に子宮内膜症が見られるとの報告、内膜症を有する女性の50%が不妊症であるとの報告もある。



子宮内膜症の症状

- 症状は？

- 月経困難症（月経痛） 約88%
- 下腹部痛、腰痛（月経周期と関係なく痛む） 約77%
- 過多月経（特に子宮腺筋症の場合）
- 骨盤痛（ダグラス窩深部病変で多い）
- 性交痛 約56%
- 排便時痛/腸蠕動痛 約43%
- 不妊 約51%
卵管閉塞，骨盤内癒着，排卵障害，液性因子など様々な理由による
- その他
便秘，血便（直腸病変、直腸狭窄）
血痰，気胸（肺、胸膜病変）など

*ダグラス窩病変の強い場合，月経時に便通が良くなると言われる。

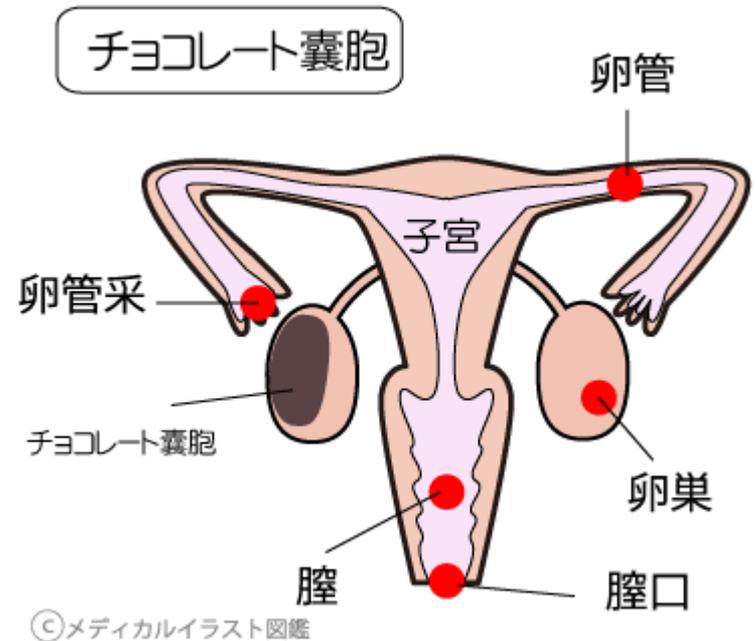
子宮内膜症の発生部位と症状

発生部位により

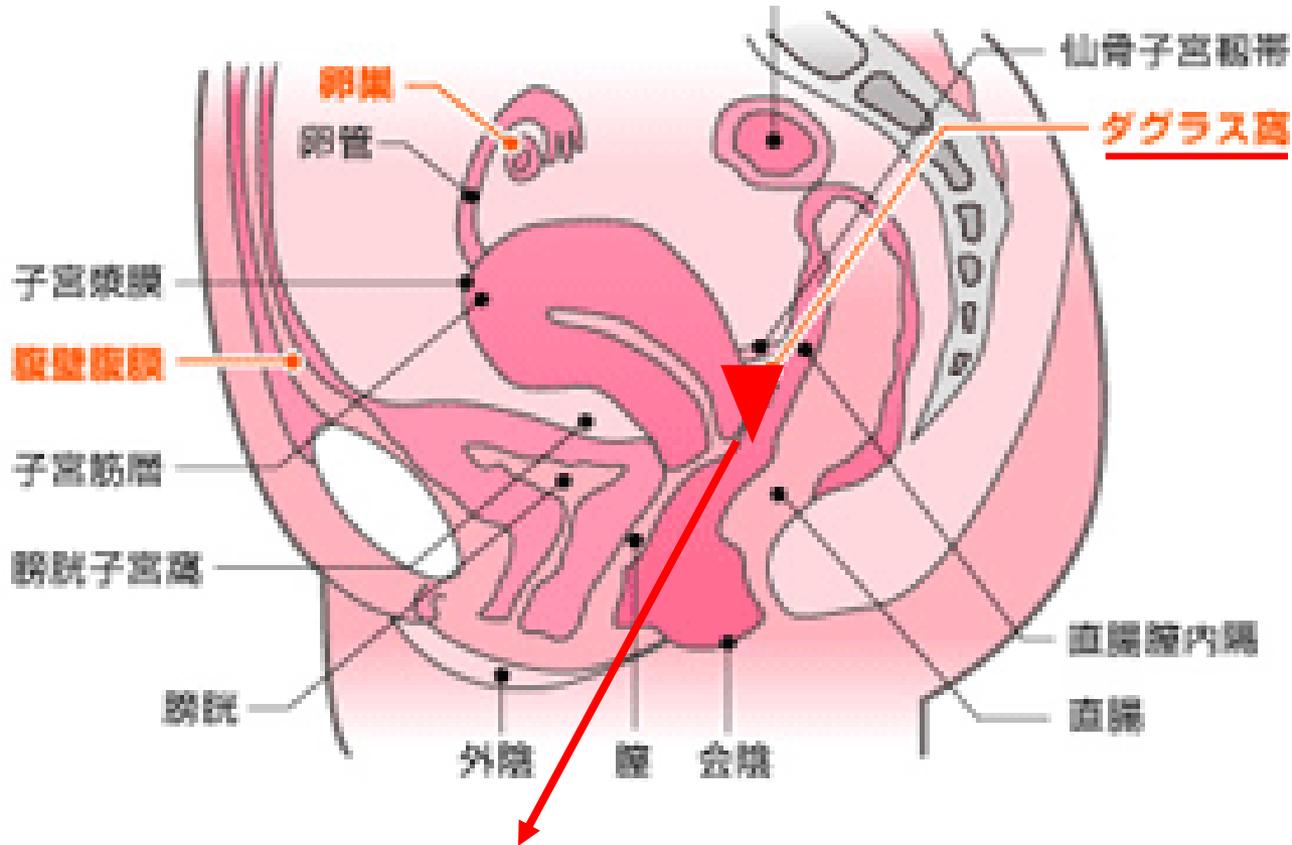
- 腹膜→腹腔内癒着→月経困難症，下腹部痛，腰痛
- 卵管内→卵管閉塞→不妊症
- 卵巣→内膜症性のう胞（チョコレートのう胞）
 - ➔月経困難，骨盤痛，下腹部痛
 - 排卵障害，破裂・内容漏出などによる急性腹症
- 子宮筋層→子宮腺筋症→月経困難症，過多月経
- ダグラス窩深部→深部子宮内膜症
 - ➔性交痛，慢性骨盤痛，排便時痛

チョコレートのお胞

- チョコレートのお胞とは？
自然経過や保存療法では通常は消失しない。
破裂などにより急性腹症を来す可能性があるほか、
不妊症との関連、がん化の可能性もあり、注意をして経過を見ていく必要がある。



深部子宮内膜症



ダグラス窩深部病変 = 深部子宮内膜症
病変は主に仙骨子宮靱帯にできる。
慢性骨盤痛の原因として注目されている。

子宮内膜症の診断

- 月経困難，不妊などから疑う
検査は
 - ①内診
 - ②画像検査（超音波，MRIなど）
 - ③血液検査（マーカー＝CA125）
 - ④手術所見（開腹，腹腔鏡）➡確定診断のほか治療も可能，
進行期（r-ASRM I～IV期）の決定.
- 確定診断は手術所見による
手術以外で診断された場合はあくまでも臨床的子宮内膜症である.



子宮内膜症の治療①～薬物療法

- 鎮痛薬：
痛みに対しては基本的に鎮痛剤を用いる。
- ✓ あくまでも対症療法であり，病変が縮小，消失するわけではない。

- ピル，LEP（Low dose estrogen-progestin）：
配合された黄体ホルモン成分により子宮内膜が萎縮する
➡内膜由来の発痛性物質減少，子宮収縮緩和により月経痛の緩和，経血量の減少が期待できる。
保険診療も可能になってきており，薬代は月1,100円程度～と以前より安価となっている。月経が規則的になるという副効用もある。
- ✓ 頻度は低いが血栓症のリスク（特に喫煙者，血圧の高い方において注意が必要）がある。

子宮内膜症の治療②～薬物療法

- 黄体ホルモン=ディナゲスト®：
2008年発売の比較的新しい薬，内膜症組織の消退を誘導する，継続投与可能という利点もある。
- ✓ 月経が不規則となる．薬代が高かったが，現在はジェネリック薬が発売されている。

- 子宮内黄体ホルモン放出システム（IUS）
=ミレーナ®：
黄体ホルモン徐放性の子宮内リング．もともとは避妊のために開発されたが，子宮内膜萎縮作用より過多月経にの治療に応用された（保険適用あり）．子宮腺筋症の治療に用いられてきている。
- ✓ 月経が不規則となる．頻度は低いが感染などのリスクがある。

子宮内膜症の治療③～薬物療法

- GnRHアナログ＝リュープリン®など：
卵巣機能の抑制，月経の停止⇒偽閉経療法。
- ✓ 病変は縮小するが，根治を目指すのは難しい。
更年期症状，骨量減少などの有害事象があり，年間6ヶ月までの使用に限定される。治療費が月1万円程度～と高価である。
- ダナゾール＝ボンゾール®：
卵巣機能の抑制，子宮内膜への直接作用。
- ✓ 男性ホルモン作用があり，体重増加や挫創，肝機能障害に注意が必要。局所投与法が一部で注目されている。

子宮内膜症の治療④

～手術療法⇒根治的になりうる

- 開腹手術
- 腹腔鏡下手術：低侵襲であり，現在主流。
開腹術に比べ術後の癒着も少ない。手技には経験が必要。

①温存手術

癒着剥離術，内膜症病巣除去・焼灼術，
内膜症性嚢胞摘出術，仙骨子宮靱帯摘出術など。

- ✓ 症状が残存する可能性はある。再発の可能性はある。特に多発性の内膜症性嚢胞は再発しやすい。

②根治手術：子宮（+卵巣）の摘出

➡症状の再燃，残存は少ない。

- ✓ 当然挙児希望のある場合は適応外。